

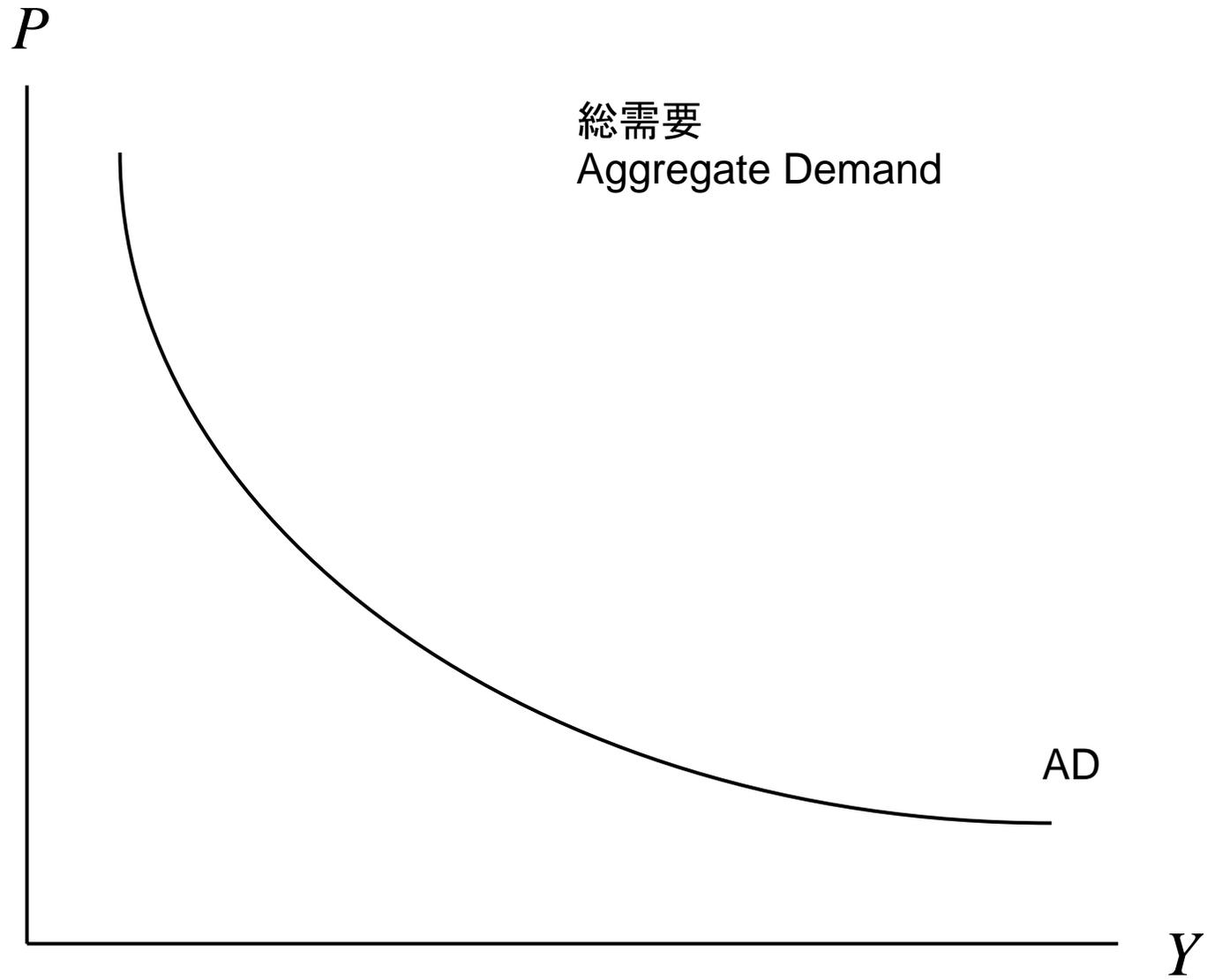
景気循環

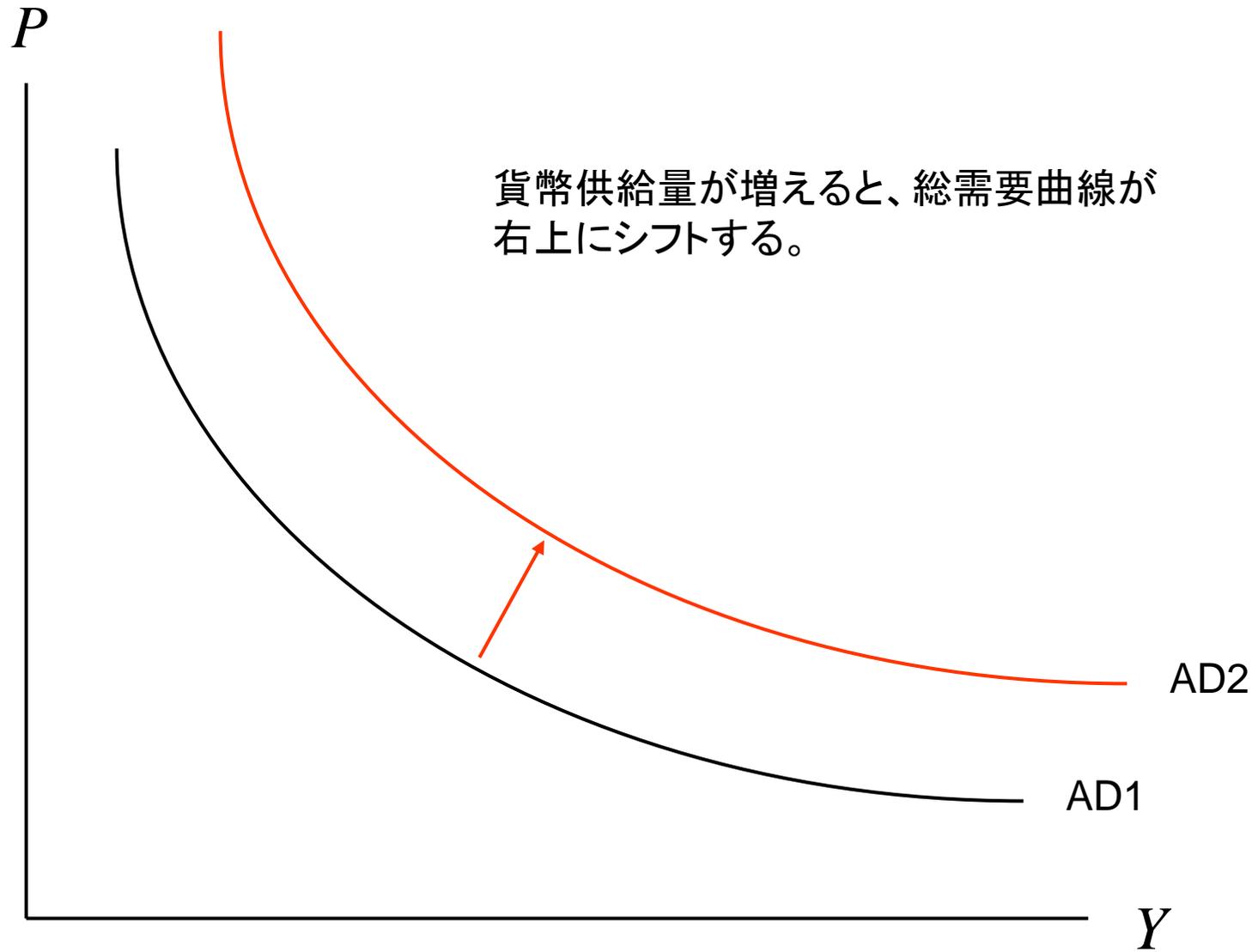
今井亮一

総需要

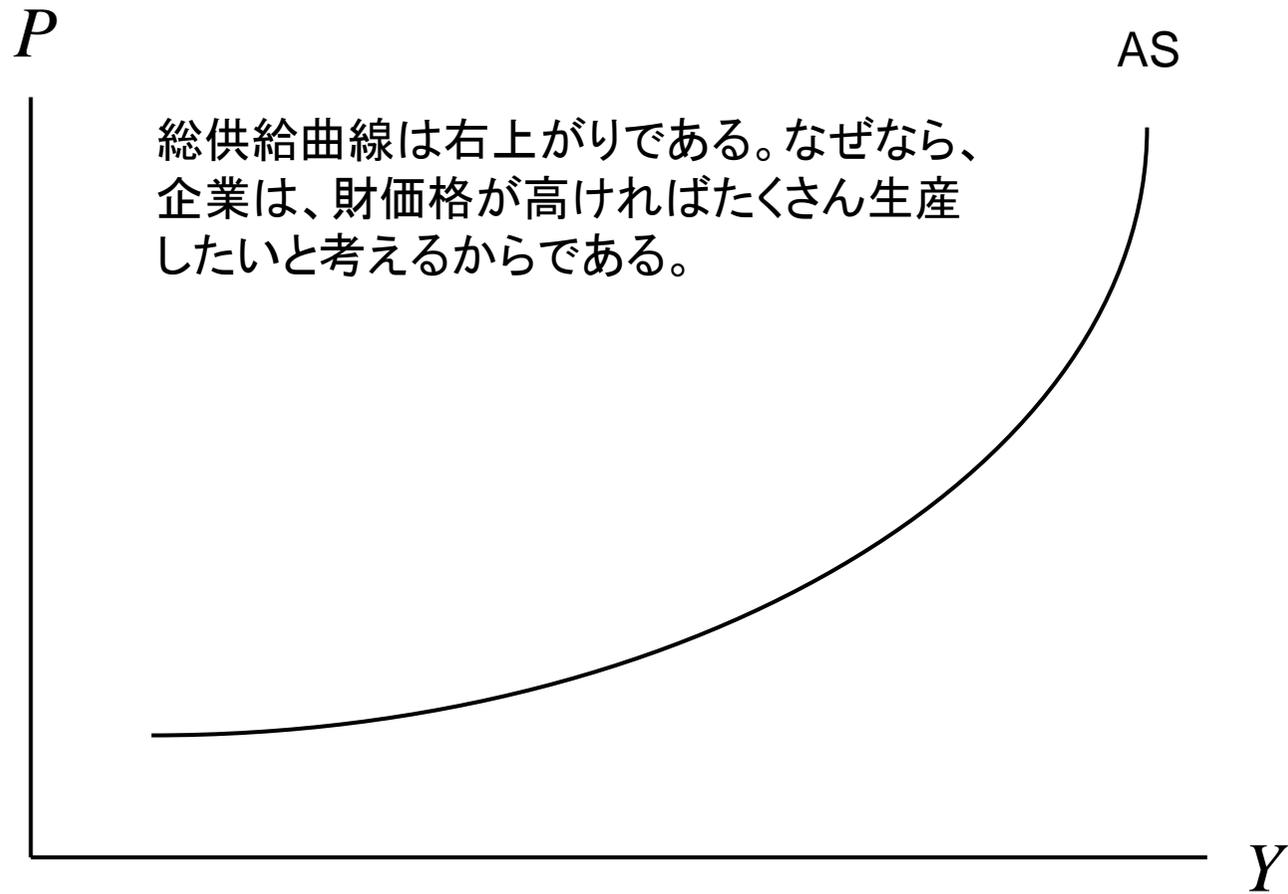
$$MV = PY \Rightarrow Y = \frac{MV}{P}$$

数学的には、総需要は物価水準の減少関数である。
物価水準が低ければ、実質貨幣残高が高くなり、
媒介できる取引量が増えて総需要が大きくなる。

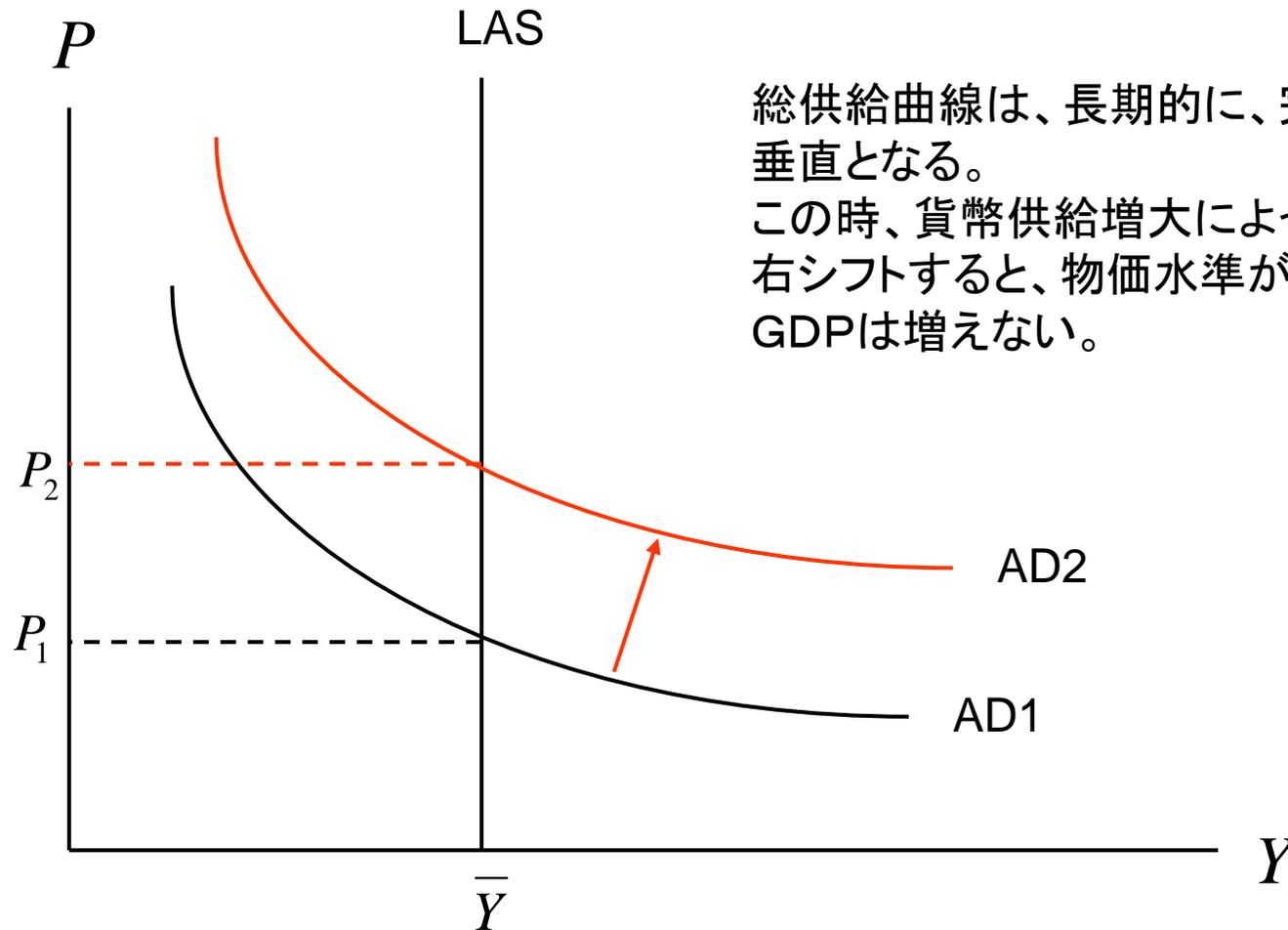




総供給

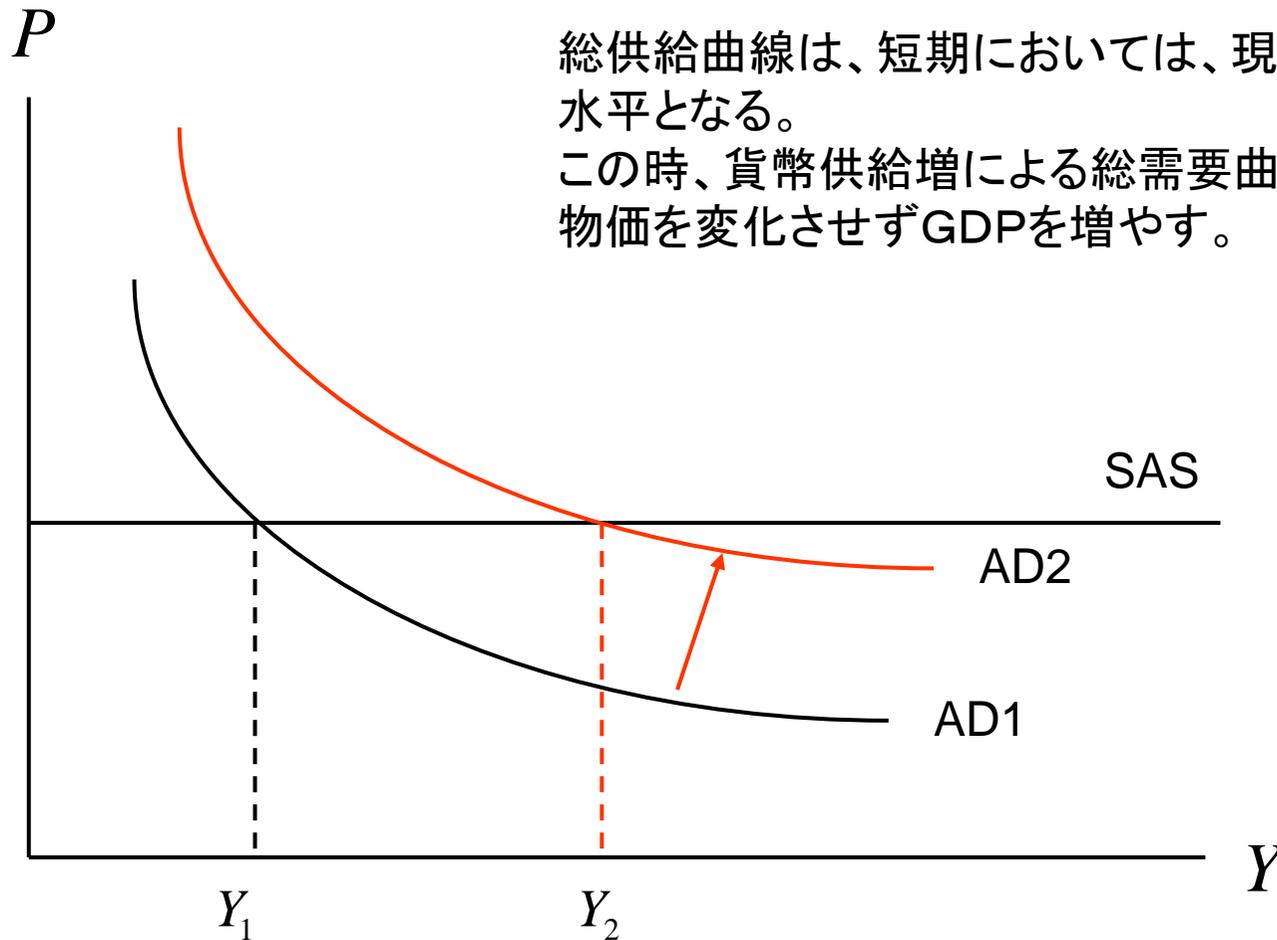


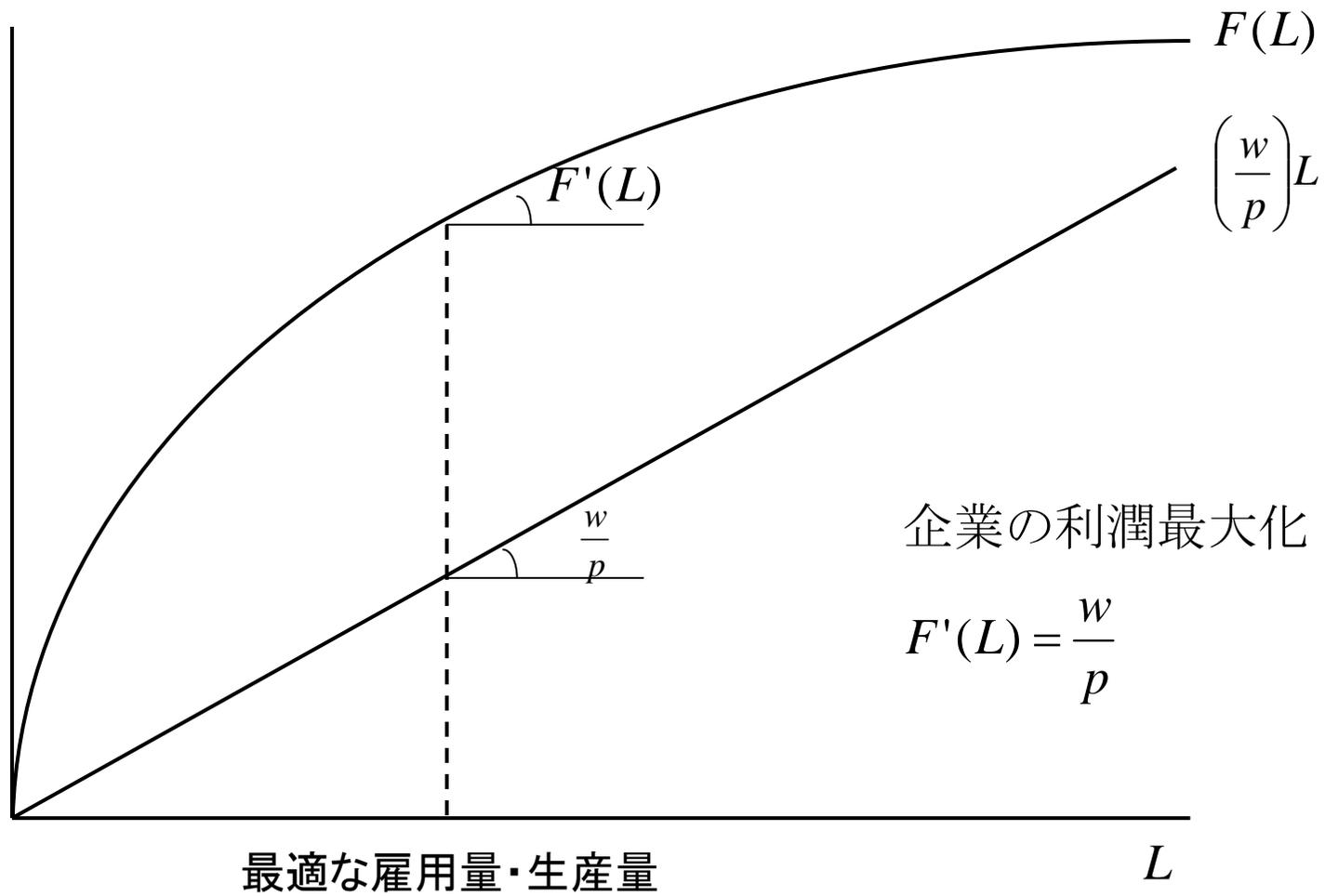
長期総供給曲線



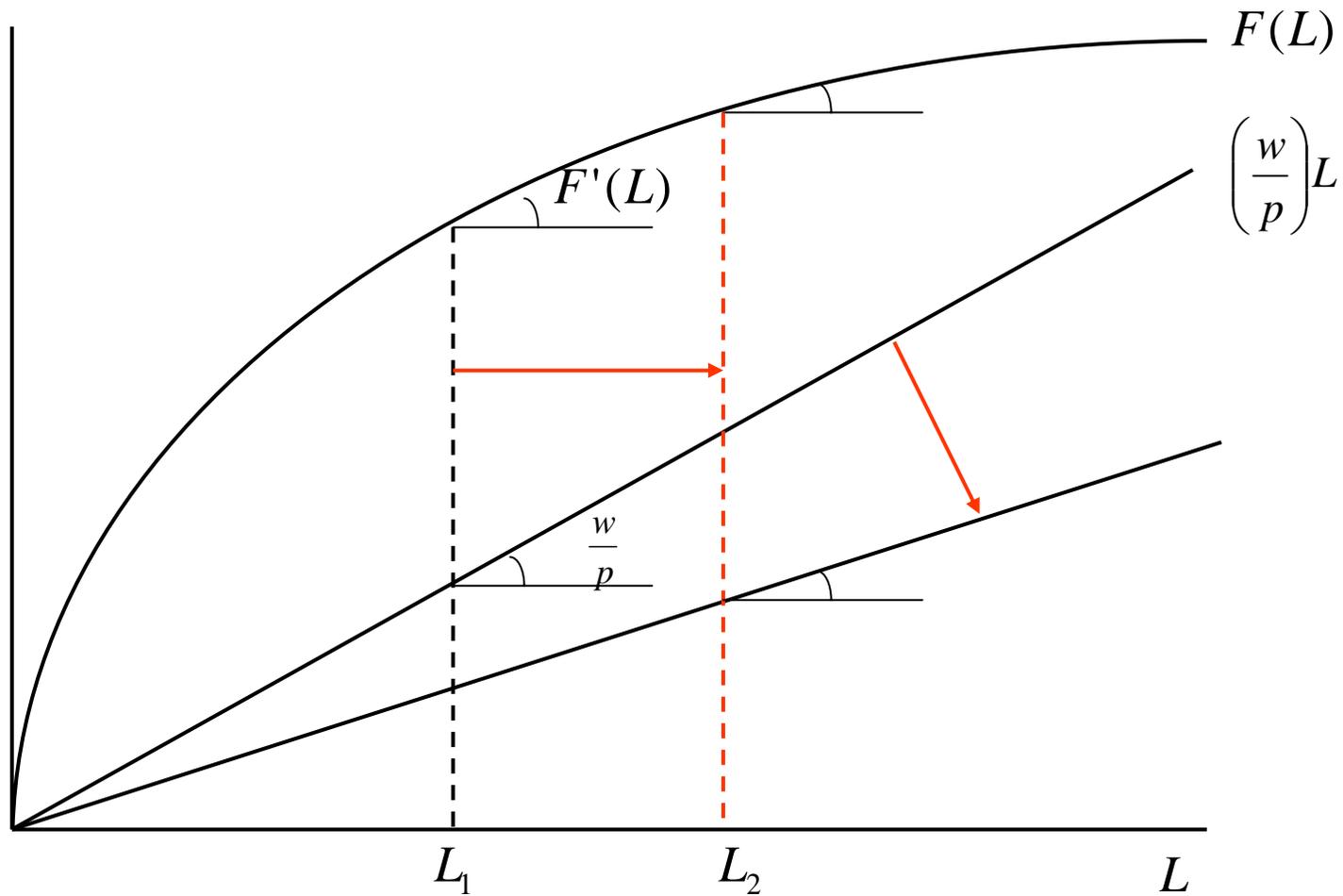
総供給曲線は、長期的に、完全雇用水準で垂直となる。
この時、貨幣供給増大によって総需要曲線右シフトすると、物価水準が上がるのみで、GDPは増えない。

短期総供給曲線

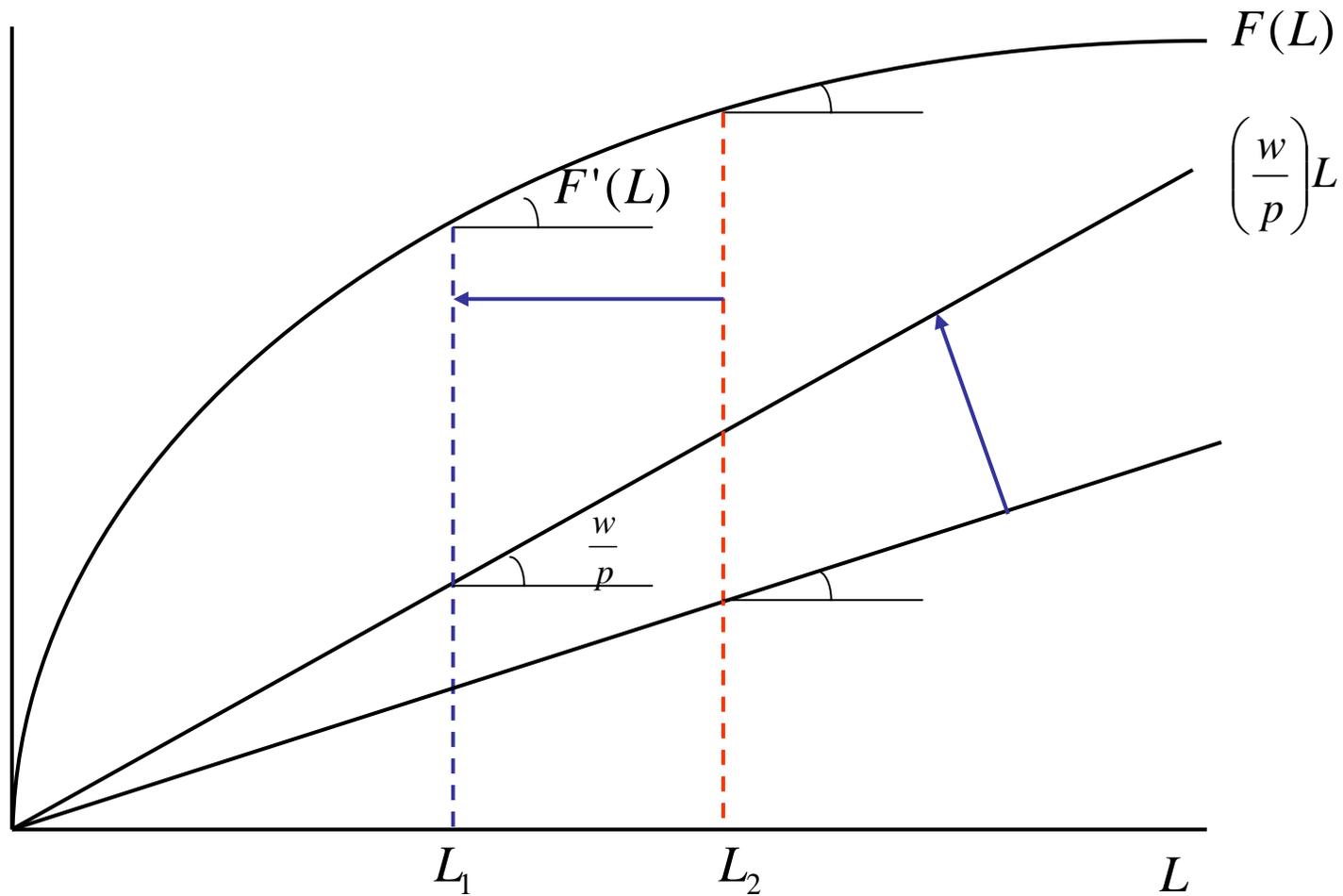




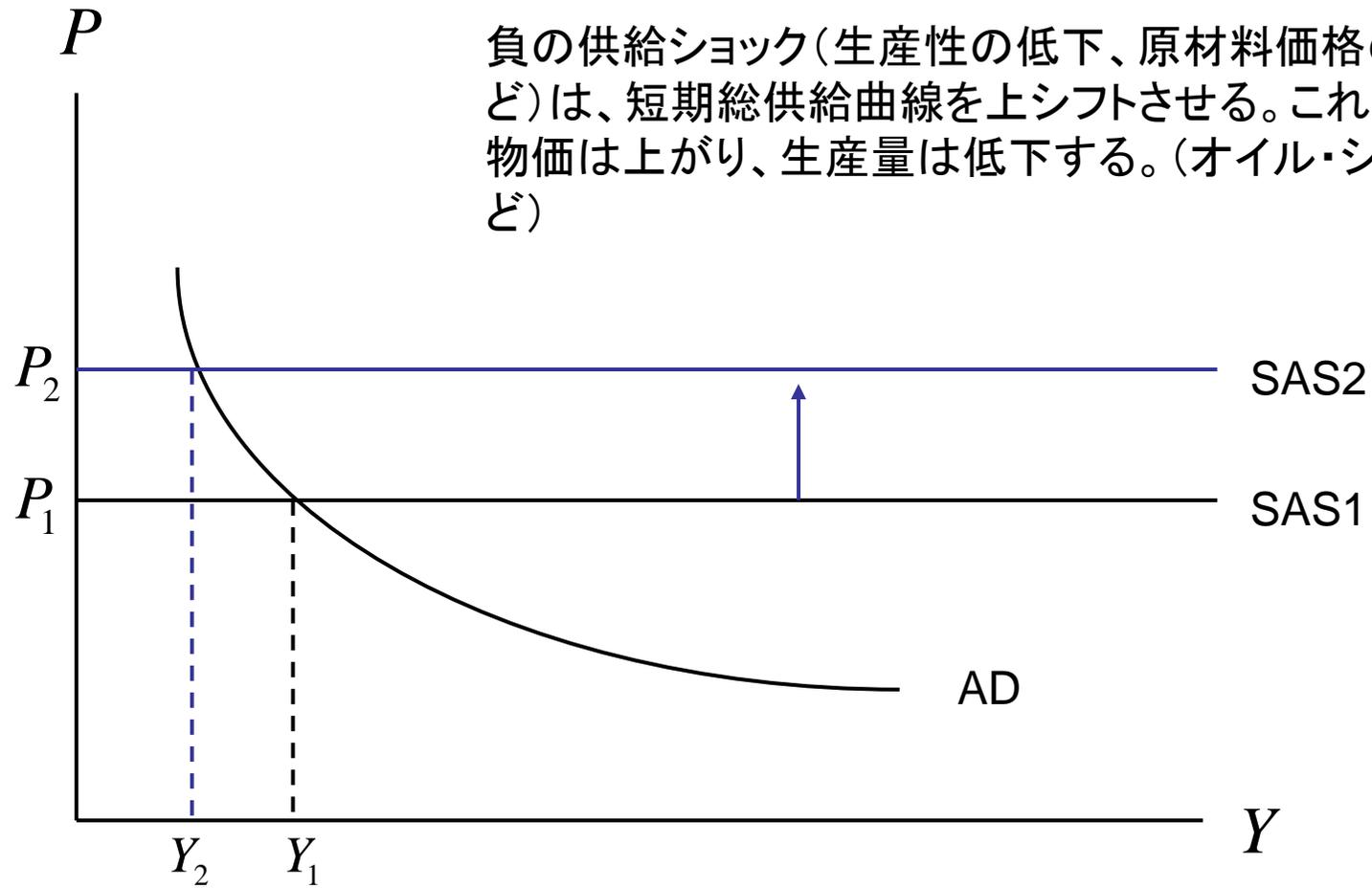
価格が上昇しても、短期的には、賃金が上昇せず、
実質賃金が低下して、企業は雇用・生産量を増やす



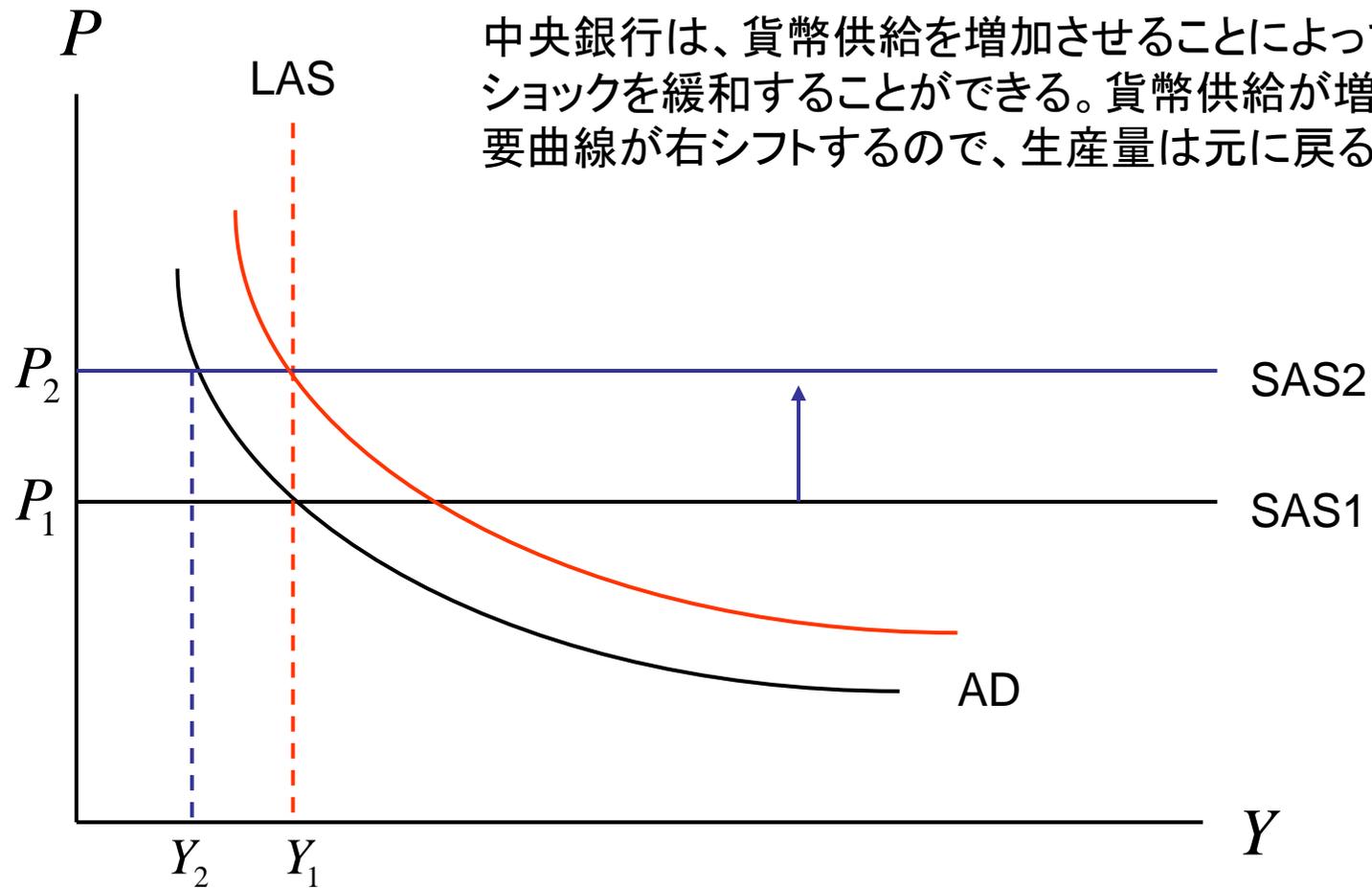
長期的には、価格とともに賃金も上昇して、実質賃金は元の水準に戻ってしまうから、生産量は増えない



負の供給ショック



安定化政策



中央銀行は、貨幣供給を増加させることによって、負の供給ショックを緩和することができる。貨幣供給が増えると、総需要曲線が右シフトするので、生産量は元に戻る。